

論文の和文要旨

氏名 平田 大輔

(博士論文の題目)

大学女子テニス選手におけるアンフォースドエラーの原因の因子構造

(博士論文の要旨)

本博士論文では、大学女子テニス選手を対象に、UEの原因とそのメカニズムについて検討することを目的とした。

第2章では、実際の試合におけるUEの実態を明らかにし、大学女子選手がゲームを取得するための方策を検討することを目的とした。

- 1) 大学女子選手の試合におけるポイントの内容はUE 55.1%、フォースドエラー15.7%、ウィナー29.2%であった。
- 2) UEの実態としてストローク、フォアハンド、クロスに関連するUEが多くみられた。またリターン、ダブルフォルトでも約2割みられた。ポジションにおいてはディフェンスゾーンでのUEが多くみられた。
- 3) ゲーム取得の有無でのポイントの内容は取得ゲームではUE 38.6%、フォースドエラー10.2%、ウィナー51.2%、失ゲームではUE 65.7%、フォースドエラー19.1%、ウィナー15.2%であった。また1ゲームあたりのUEの数では失ゲームにおいて2回以上、ゲームの終盤に、そして連続してのUEが多くみられた。
- 4) 分析項目ごとにUEの実態をみたところ得失ゲームに関わらずUEの傾向は同じであった。
- 5) 得失ゲームのUEについてクラスター分析したところ、取得ゲームでのUEは「サイド」・「コースチェンジの有無」と「エラーしたコース」・「エラーする前のコース」・「アウト・ネット」で、それぞれにまとまりをみせているが、失ゲームにおいてはそれらがひとまとまりになってみられていた。

以上の結果から、大学女子選手がゲームを取得するための方策として、①クロスラリー、サーブ、2ndサーブに対するリターンのUEを減らす、②連続してUEをしないためにエラーしたポイントを引きずらず、次のプレーに対してやるべきことを明確にしてプレーに入る、③後半でのUEは焦りや動揺により技術的な微妙なずれを生じさせUEが起きる可能性が高まるため減らすことが必要

と考えられた。

第3章での目的は大学女子テニス選手のUEの原因について探索的に調査し、その内容を整理・集約することにより大学女子テニス選手の練習や指導において有用な資料を提示することであった。公式戦の試合におけるUEを対象に、当該選手に対して半構造化面接法を用いた面接調査を行い、発話データに含まれるUEの原因について探索的に分析したところ、以下の結果が得られた。

- 1) 抽出された1182個のUEに関する意味単位は、大きく「状況判断過程」「技術的な問題」「心理的な問題」に分類された。
- 2) 「状況判断過程」ではボールの軌道の認知・予測の間違いがUEの原因としてみられた。
- 3) 「技術的な問題」では準備不足が主要局面である打点・タイミングに影響を及ぼし、UEに繋がっていた。
- 4) 「心理面の問題」では予測の確信の遅れがUEの原因としてみられた。また「心理面の問題」が「状況判断過程」「技術的な問題」にも影響を及ぼしていることも明らかになった。

これらの結果からUEを防ぐには、UEがよく起こる状況での正しい判断の必要性和、その場の状況だけでなく、競技レベルにあった戦術的・経験的知識に基づいた予測を行うことの重要性が示唆され、また心理面の問題が状況判断過程や技術的な問題にも影響を及ぼしていることが明らかになった。

第4章では、①大学女子テニス選手のUEの原因について質問紙からUEの因子構造とその因果関係について、②指導者からみた選手のUEの原因について、の2つの目的を明らかにすることであった。

①では先行研究を基にUEに関する47項目の質問紙を作成し、全日本学生テニス連盟に所属する大学の女子テニス選手289名を対象に分析したところ、以下の結果が得られた。

- 1) 探索的因子分析の結果、「注意散漫」「判断の迷い」「準備動作の遅れ」「不安」の4因子がUEの原因として抽出された。また検証的因子分析の結果、UEの原因に対する構成概念妥当性も確認された。
- 2) UEの原因の因果関係について、パス解析を行ったところ、「注意散漫」から「準備動作の遅れ」、「判断の迷い」から「不安」と「準備動作の遅れ」、「不安」から「準備動作の遅れ」という因果関係がみられ、モデルの適合度は概ね良いと判断される値であった。
- 3) 技能レベルでの多母集団同時分析を行ったところ、「判断の迷い」から「不安」へは上位群と中位群で、「不安」から「準備動作の遅れ」へは上位群で、「注意散漫」から「準備動作の遅れ」へは中位群でパスが有意であった。下位群ではいずれも有意なパスはみられなかった。

4) UE の原因について競技レベル別にみたところ「判断の迷い」の因子で有意差がみられ、UE の得点は上位群の方が高い得点であった。

②では指導者に対して①の質問紙を指導している選手に対する UE の原因について、77名の指導者を対象に分析したところ、以下の結果が得られた。

- 1) 指導選手の競技レベルによる指導者からみた UE の原因についてみたところ、「注意散漫」「準備動作の遅れ」「不安」で有意差がみられ、競技レベル低群の指導者で得点が高かった。
- 2) 競技レベルによる選手と指導者の比較をしたところ、競技レベル低群の選手と指導者で「注意散漫」の因子で有意差がみられ、指導者の得点が高かった。

これらの結果、大学女子テニス選手の UE の原因として、状況判断過程に関わる「注意散漫」「判断の迷い」の因子、技術的な問題に関する「準備動作の遅れ」の因子、心理的な問題に関わる「不安」の因子があり、競技レベルが上がるにつれて「注意散漫」から「不安」、「不安」から「準備動きの遅れ」で高い因果関係が認められた。競技レベルごとの指導者からみた選手の UE の原因では「注意散漫」「準備動作の遅れ」「不安」競技レベルで、また競技レベル低群の選手とその指導者では「注意散漫」で UE の原因に違いが認められた。

以上のことから、本博士論文によって大学女子テニス選手の UE の実態としてクロスラリー、サービス、2ndサーブに対するリターンでの UE が多くみられることが明らかになった。またゲーム取得による UE の比較では、失ゲームにおいて2回以上、ゲームの終盤に連続して UE が起きていることが明らかになった。その UE の原因として「注意散漫」「判断の迷い」「準備動作の遅れ」「不安」があり、競技レベルによって「判断の迷い」から「不安」、「不安」から「準備動作の遅れ」で因果関係が異なることが明らかになった。

よって指導者はゲーム全体を通して、戦術・戦略を理解させるだけでなく、UE を起こしやすい状況の理解と起こるであろう状況を予知するといった分析的思考を高める指導をして行く必要がある。